

第73回全国高校スケート・アイスホッケー競技選手権（スケートインターハイ）は20日、八戸市と南部町でアイスホッケーが開幕。岐阜県でスピード、茨城県でフィギュアを行った。アイスホッケー1回戦は八戸・八学光星が明大中野（東京）に7-4、八工大が北海（北海道）に4-2、八戸工が龍谷富山に17-1で勝ち、そろって16強入りを決めた。スピードは女子1500mの根城理実

第73回 全国高校スケート

（八戸西）が4位となり、前日の3000mに続き2種目で入賞を果たした。フィギュアは女子予選C組ショートプログラム（SP）で間口風花（八工大）が33位。前日のB組SP4位の聖前栞乃華（同）は予選全体で12位となり、初めて決勝に進んだ。21日はアイスホッケー2回戦8試合、スピード男女2000mリレーと男女団体追い抜き、フィギュア女子決勝フリーを行う。（本紙取材班）



【アイスホッケー1回戦・八戸・八学光星】明大中野（東京）第3ピリオド15分49秒、八戸・八学光星のFW樋口が決め、5-4と勝ち越す。フラットハブ

県勢3チーム初戦突破

八戸・光星 終盤粘り

アイスホッケー
学光星 7(11)2 明大中野
6(11)4 東京
▽得点者(八)松本、樋口、
▽1回戦
金川(明)沢辺、中村圭

【評】終盤に粘りを見せた八戸・八学光星が緊迫した接戦を制した。4-4の同点で迎えた第3ピリオド15分49秒、ゴール前に抜け出した主将のFW樋口が冷静に決め、試合終盤に成功。試合終了後、樋口は感謝の思いを示すかのように、マスクを外し何度も観客席に頭を下げた。次戦の相手は北海道の強豪・白樺学園。樋口は「相手はフィジカルも技術も上手。集大成の舞台なので、思い切りぶつかっていききたい」と気合を入れ直した。（工藤慎子）

合同チーム 感謝の勝利

瞬く間の逆転劇だった。リードを許す苦しい展開の中で、八戸・八学光星は第3ピリオド中盤からの4連続得点で、一気に相手を引き離した。流れをたぐり寄せたのは主将のFW樋口（八戸）。第3ピリオド15分49秒、自陣でバックを奪い、ゴール前まで一気に駆け上がった。「とにかく無心だった」。相手GKと1対1に持ち込むと、わずかに前に出たGKを巧みにかわし、冷静にゴールにたたき込んだ。これが決勝点となった。第1、2ピリオドに何度も訪れた決定機は、ことごとく外した。「正直、フラストレーションが若干たまっていた」。それでも気持ちは切れなかった。「仲間

の雰囲気最後までずっと良くって、チームのおかげでモチベーションを保てた」と勝因を振り返った。少子化による部員不足を背景に、本年度から認められた合同チームとして、全国の舞台に立った。「いろんな人のおかげで最後のインターハイに出られた。多くの人に感謝したい」。試合終了後、樋口は感謝の思いを示すかのように、マスクを外し何度も観客席に頭を下げた。次戦の相手は北海道の強豪・白樺学園。樋口は「相手はフィジカルも技術も上手。集大成の舞台なので、思い切りぶつかっていききたい」と気合を入れ直した。（工藤慎子）